

## 広域的地域活性化計画の事後評価報告シート(1)

都道府県： 京都府

計画の名称： 丹後・伊根地域

### 1) 事業の実施状況

計画の整備方針	事業区分	事業名	事業実施状況	事業未実施の理由
○交通網の整備改善 ・道路を整備することにより、周辺観光地との連携を強化する	基幹事業	国道178号(伊根町平田)	○	
		国道178号(宮津市岩ヶ鼻～伊根町平田)	○	
		府道網野岩滝線(京丹後市弥栄町)	△	H24に繰越完成
		都市計画道路岩滝海岸線(与謝野町岩滝)	○	
		国道178号(宮津市日置～岩ヶ鼻)	○	
○観光地としての魅力向上 ・観光拠点での情報発信、施設整備により、集客力を強化する	関連事業	国道178号養老伊根バイパス	○	
		府道網野岩滝線(京丹後市弥栄町)	○	
		都市計画道路岩滝海岸線(与謝野町岩滝)	○	
	提案事業	丹後あじわいの郷魅力発信事業	○	

○:計画期間中に完成 △:計画期間終了後に完成 -:事業を中止

### 2) 目標の達成状況

計画目標	事業効果の確認方法	指標名	従前値	目標値	評価値
天橋立などの周辺観光地との連携強化による観光地としての魅力向上、活性化	計画で定めた目標指標	伊根町年間観光入込客数	237,920人(H18)	250,000人(H23)	231,455人(H23)
		丹後あじわいの郷年間利用者数	91,345人(H18)	110,000(H23)	107,832人(H23)
	目標指標以外の成果指標	平均旅行速度(国道178号センサス)	40.1km/h(H17)		54.8km/h(H22)
	その他の定性的な成果				

## 広域的地域活性化計画の事後評価報告シート(2)

### 3) 目標達成・未達成への事業の効果の影響分析

事業効果の確認方法	計画で定めた目標指標		目標指針以外の成果指標	その他の定性的な成果
	①伊根町年間観光入込客数	②丹後あじわいの郷年間利用者数	③地区内旅行速度	
事業効果の発現状況	国道178号養老伊根バイパスの開通に伴い伊根町へのアクセスは向上したものの、東日本大震災に伴う全国的な観光客の減少もあり、目標には至らなかった。	丹後あじわいの郷魅力発信事業により利用者数は増加したものの、東日本大震災に伴う全国的な観光客の減少もあり、目標には至らなかった。	国道178号の整備が完了し、旅行速度が向上した。	
外部要因の影響	東日本大震災や高速道路無料化社会実験終了の影響があり、丹後地域全体として観光入込客数が減少したこともあり、目標には至らなかった。			
目標達成・未達成の要因 (問題点の把握)	東日本大震災に伴う全国的な観光客の減少や高速道路無料化社会実験終了の影響により、目標達成には至らなかった。	丹後あじわいの郷利用者は増加していることから一定の成果は出たものの、全国的な観光客数の減少の影響により目標達成には至らなかった。	道路整備区間の旅行速度が向上しており、整備効果が見受けられる。	
目標の達成・未達成区分	A	A		
全体計画の総合評価	東日本大震災に伴う全国的な観光客の減少や高速道路無料化社会実験終了など外部要因による影響が大きく計画目標値には達しなかったが、交通網の整備・改善がはかられ旅行速度の向上など整備効果が現れている。			

S : 計画推進による効果が確認され、評価値も目標値を上回った

A : 計画推進による効果が確認されたが、評価値が目標値に達していない

B : 計画推進による効果が確認できなかったが、評価値が目標値を上回った

C : 計画推進による効果が確認できず、評価値も目標値には達していない

### 4) 事後評価の手続き

実施体制・実施時期	・社会資本整備総合交付金交付要綱に基づき実施(平成28年)
結果の公表方法	・京都府ホームページにて公表を行うこととする URL: <a href="http://www.pref.kyoto.jp/kanri/1312242158582.html">http://www.pref.kyoto.jp/kanri/1312242158582.html</a>

## 広域的地域活性化計画の事後評価報告シート(3)

### 5) 今後の活性化方策の検討

#### ① 未達成目標の改善方策

計画で定めた目標指標	目標の達成状況	改善方策
伊根町年間観光入込客数	A	京都縦貫自動車道の事業を促進するとともに、官民一体となった観光活性化活動への支援を行い丹後地域全体の観光入込客数増加を目指す
丹後あじわいの郷年間利用者数	A	京都縦貫自動車道の事業を促進するとともに、官民一体となった観光活性化活動への支援を行い丹後地域全体の観光入込客数増加を目指す

#### ② 今後の広域的地域活性化方策

京都縦貫自動車道が平成27年に全線開通する予定であることから、これを機に京都府域での各種イベントを実施することで、観光活性化を図り府内の観光入込客数の増加を目指す。

### 6) フォローアップ

計画目標	フォローアップが必要な目標指標	フォローアップ時期	備考
天橋立などの周辺観光地との連携強化による観光地としての魅力向上、活性化	伊根町年間観光入込客数	H28.8	H27観光入込客数が251,970人となり目標達成
	丹後あじわいの郷年間利用者数	H28.8	H27年間利用者数が400,128人となり目標達成

## 参考資料:事後評価におけるチェック項目

### I. 事業評価の内容

①事業の実施状況	チェック欄
事業(基幹、提案、関連)の実施状況が明らかにされている。	■
拠点施設及び重点地区における拠点施設整備事業については、基幹事業の一体性が確認されている。	■
当初見込んだ事業効果の発現状況が明らかにされている。	■
拠点施設の整備を伴う計画の場合(法第2条第3項第1号)、当該事業が実施された。	■
他の事業との連携等による、相乗効果・波及効果について記載されている。	■
<b>②目標の達成状況の整理</b>	
広域的特定活動の状況を踏まえた目標の達成状況が記載されている。	■
指標・数値目標により、目標の達成状況が表現されている。	■
計画で定めた目標指標以外の成果指標について、指標・数値目標がわかりやすいものとなっている。	■
評価のわかりやすさや中立性を損なわない範囲で、指標・数値目標以外の方法によっても、目標の達成状況に関する評価がなされている。	□
事後評価の時点で目標指標の計測が困難な場合、フォローアップの実施時期が明確にされている。	■
目標の達成状況に影響を与える主な外的要因が把握・整理されている。	■
<b>③目標の達成・未達成要因の分析、評価</b>	
拠点施設が広域的特定活動の拠点としての機能を果たしている。	■
事業内容と指標・数値目標との整合性が確保されている。	■
地域資源の活用やハード・ソフトの連携等が図られている。	■
拠点施設での広域的特定活動が計画どおり実施されている。	■
民間事業者等の多様な主体との連携が図られた。	■
外的要因の影響を踏まえた評価となっている。	■
<b>③目標の達成・未達成要因の分析、評価</b>	
評価内容を踏まえた今後の改善策や更なる取り組みの方針が明確となっている。	■
今後の改善策や更なる取り組みの状況を明らかにするフォローアップの計画が示されている。	■

### II. 事後評価の手続き

第三者(学識者等)による評価委員会で検討されるなど、適切な体制で評価が実施されている。	□
交付金等の制度の効果的・効率的な活用を広く国民に明らかにし、また、分かりやすい方法で確認することができるよう、適切に公表がされている。	■

### III. その他

事後評価の内容と整合の図られた広域的地域活性化基盤整備計画が添付されているか。	■
---	---